

令和5年度



～持続可能な地域を目指して～

新たな地域コミュニティ 推進事業

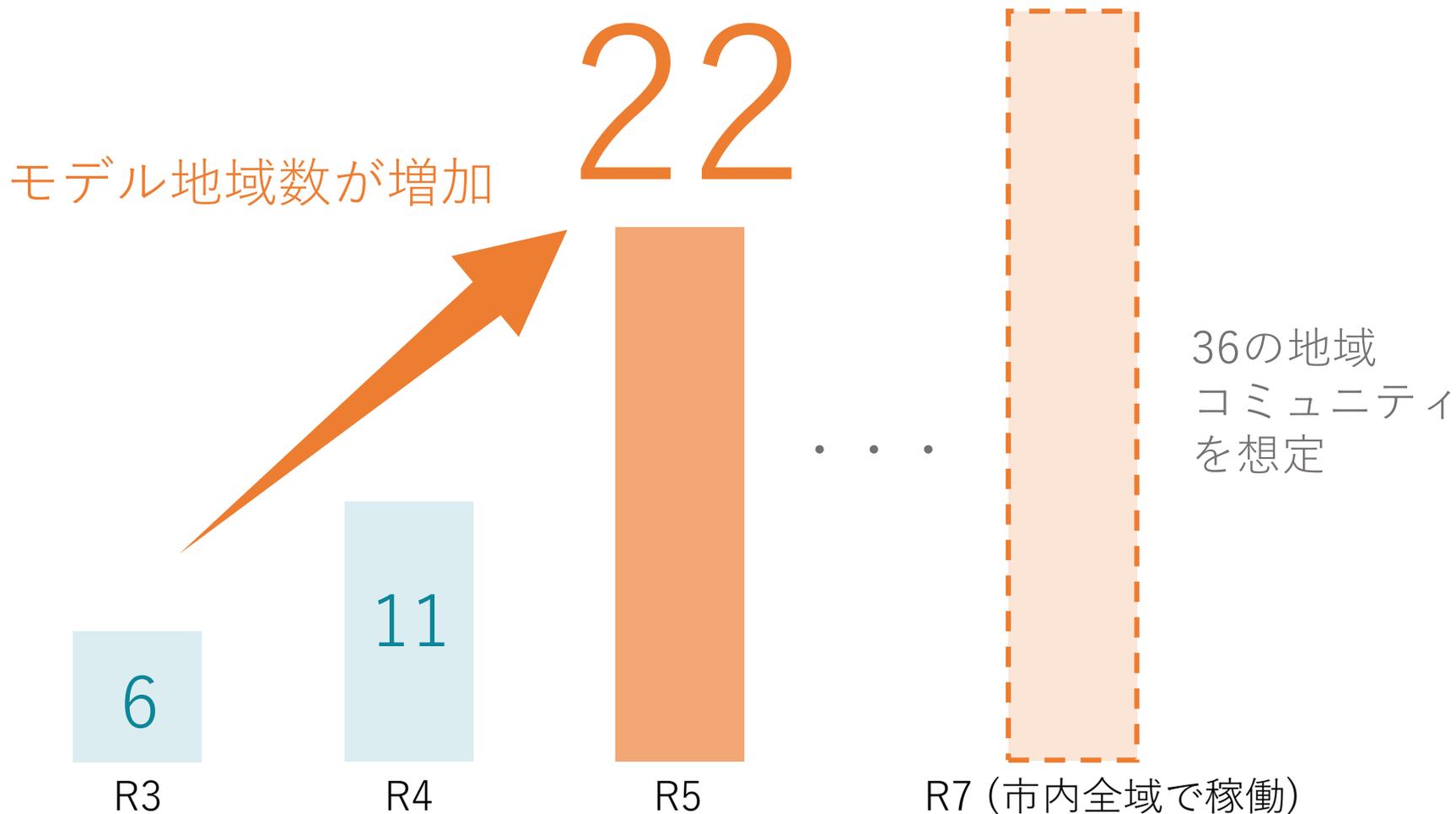


京丹後市 市長公室 地域コミュニティ推進課

目次

- 0 令和5年度 モデル地域
- 1 京丹後市の状況
- 2 地域の現状
- 3 地域づくりの実行組織の必要性
- 4 京丹後市の取り組みの経過
- 5 新たな地域コミュニティ
- 6 推進に向けた支援制度
- 7 稼ぐ地域を目指して

- モデル地域の推移：R3は6地域、R4は11地域、R5は地域22地域
- R5は、新たに11の地域が事業に着手



- モデル地域の推移：R3は6地域、R4は11地域、R5は地域22地域
- R5は11の地域が新たに事業に着手

【STEP1】

組織・計画づくり

- いやさか溝谷地域づくり協議会
- 五箇地区区長連絡協議会
- 郷シンコミ協議会
- 峰山東地区
- 下岡区・新庄区地域づくり協議会
- 峰山南地区
- 浅茂川区・磯区地域づくり協議会

計7地域

【STEP 2】

実践・運営

- いやさか吉野地域づくり協議会
- 豊栄まちづくり協議会
- 川上地区振興会
- 神野地区自治会
- 湊地区自治会
- しましまベース（島津小校区）
- いやさか鳥取校区地域づくり協議会
- 田村地区自治振興会
- 河辺区
- 間人区
- 宇川連携協議会

計11地域

【STEP 3】

自走

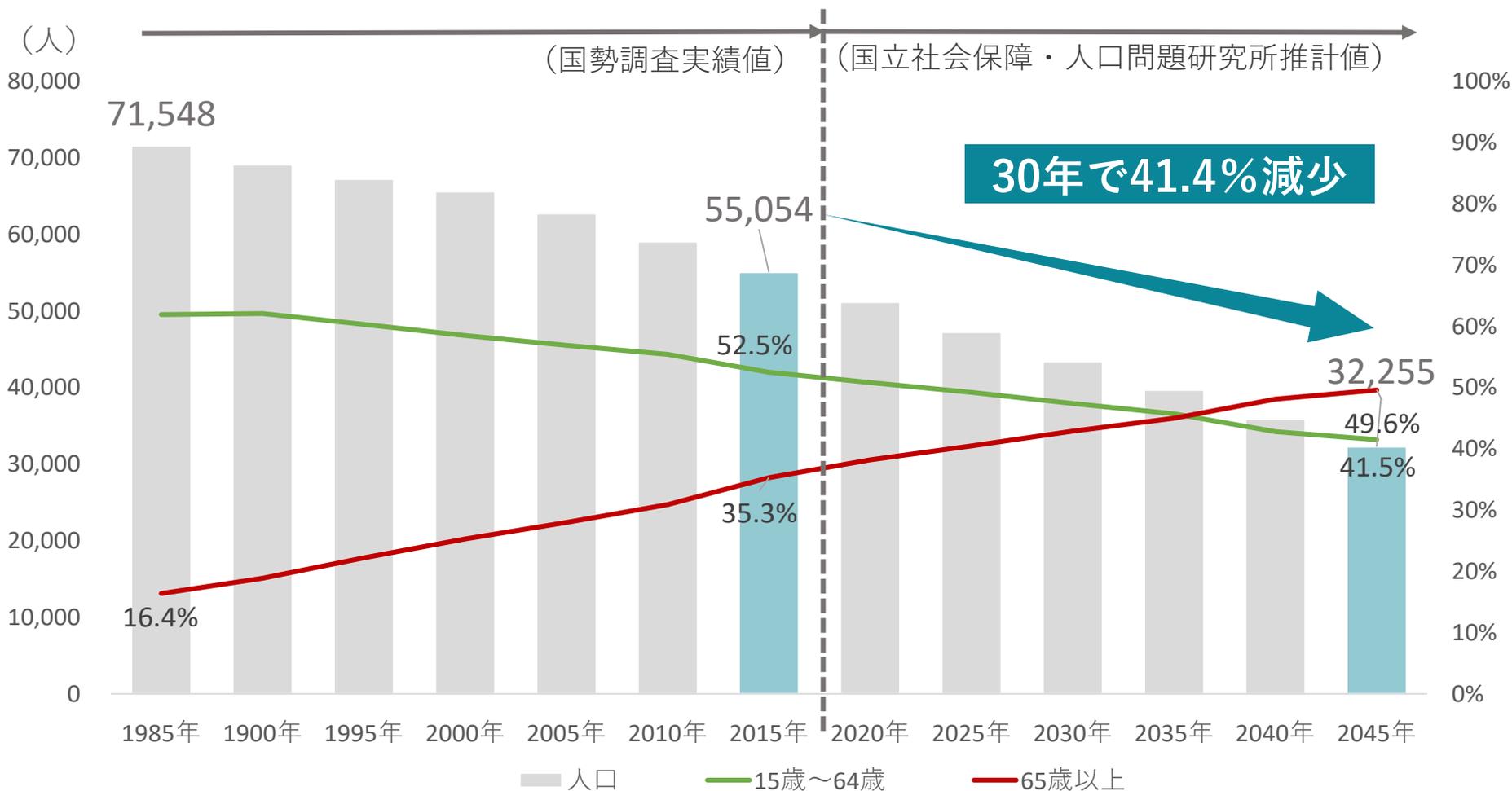
- 久美浜一区自治会
- 久美浜二区振興会
- 佐濃自治会
- 野間連合区

計4地域

1 京丹後市の状況【人口推移】

- 2045年の推計人口は32,255人（2015年比41.4%減少）
- 2045年には概ね2人に1人が65歳以上となる見込み

（出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計）

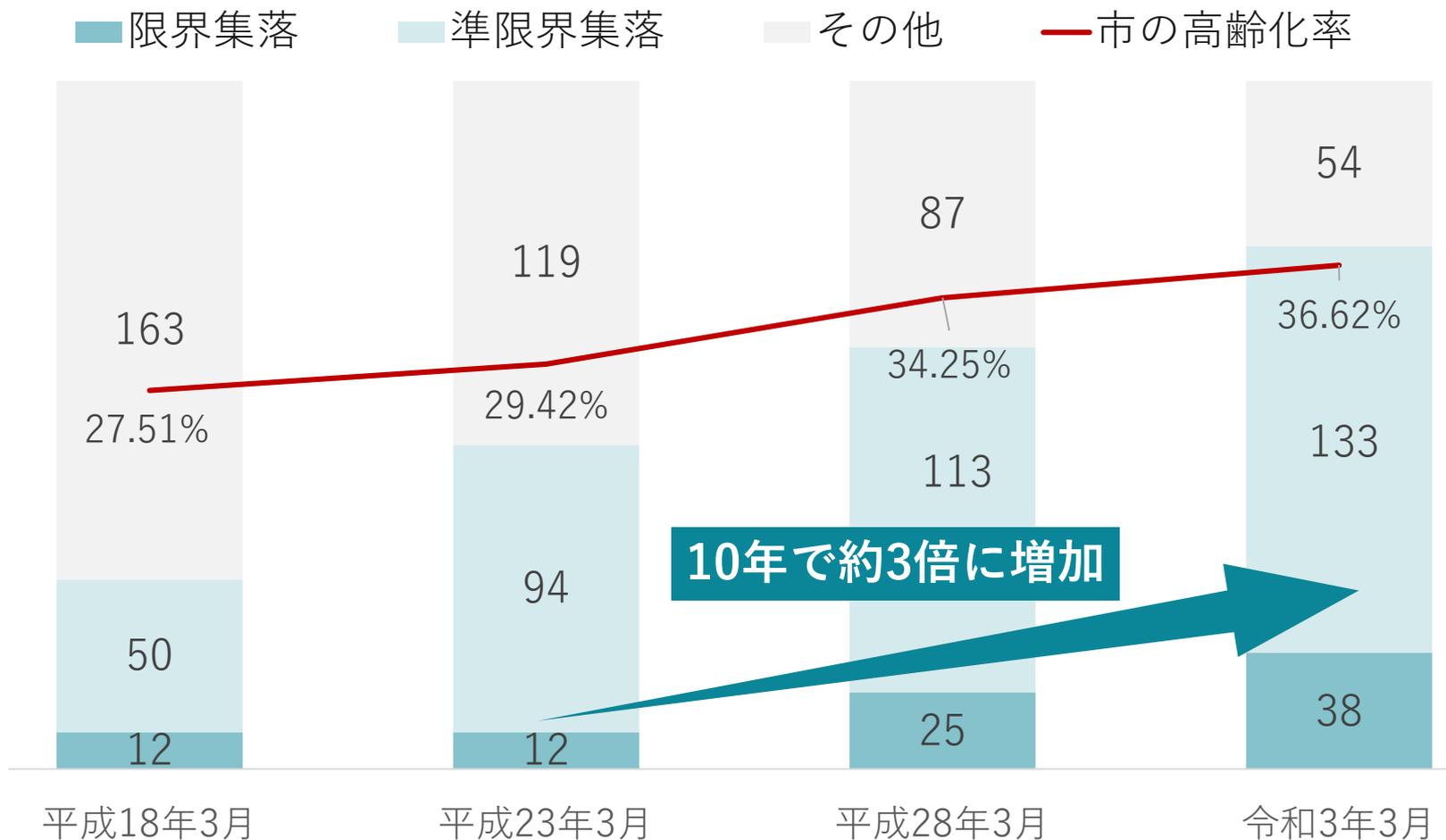


1 京丹後市の状況 【限界集落数の増加】



- 限界集落の数がここ10年で約3倍に増加
- 人口減少や高齢化により、行政区の機能低下が懸念される

(出典：京丹後市住民基本台帳)

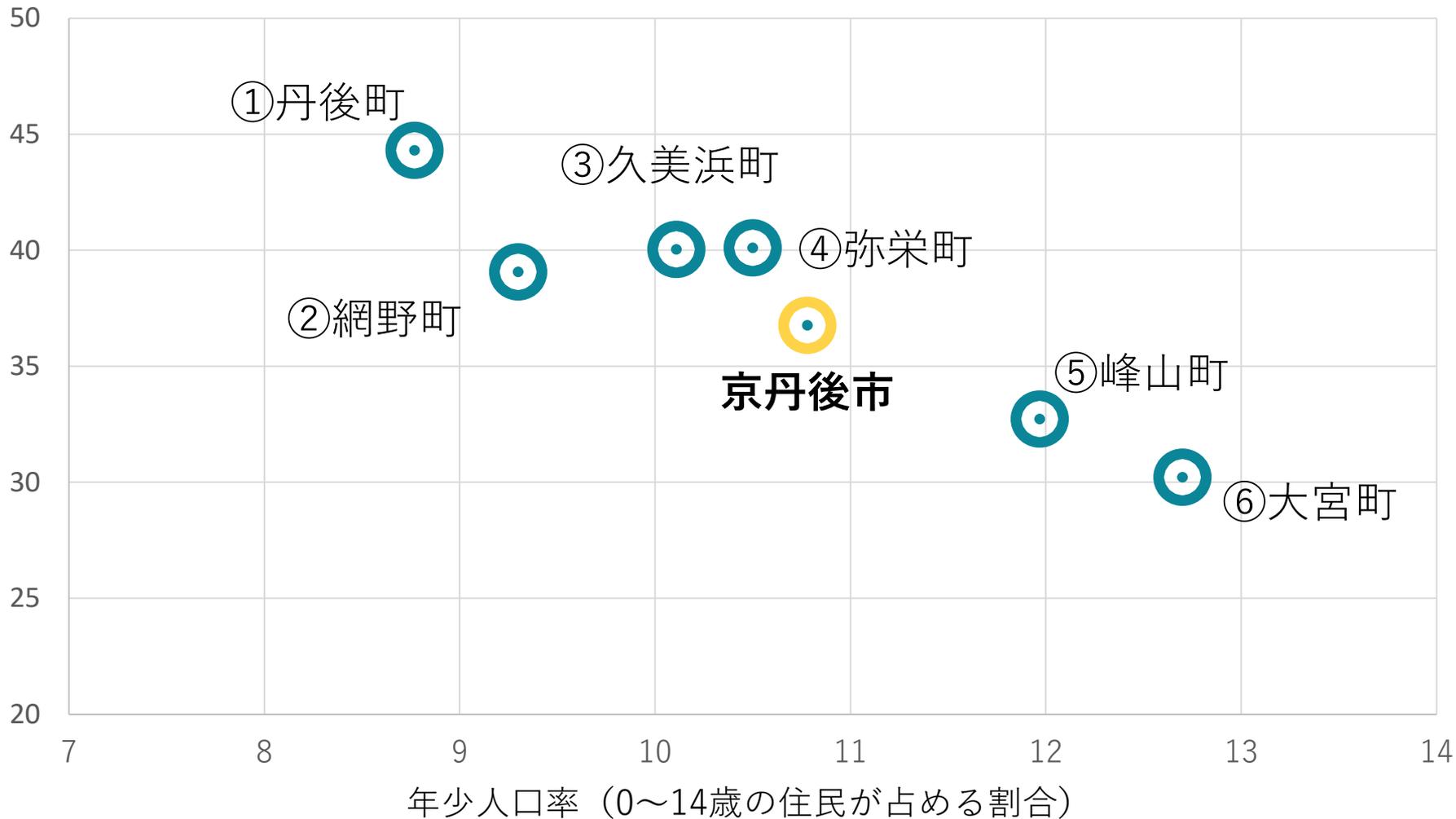


1 京丹後市の状況【年少人口率・高齢化率】



- 旧町エリアで見ると状況が異なる
- 一つの旧町エリア内でも、地域によって状況が異なる

高齢化率（65歳以上の住民が占める割合）



2 地域の現状 【地域活動の停滞】

- これまで地域活動は、行政区を中心とした支え合いで運営されてきた
- 人口減少や高齢化で、今後、地域活動が継続できない恐れがある

環境整備



防災活動



高齢者支援



祭り



子ども会



運動会



除雪



マルシェ



行政区を中心とした支え合いで運営されてきた地域活動

- 買い物や移動(民業撤退)、空き家など地域課題が多様化
- 行政区単独では解決できない課題が増加している

買い物



移動など生活支援



空き家



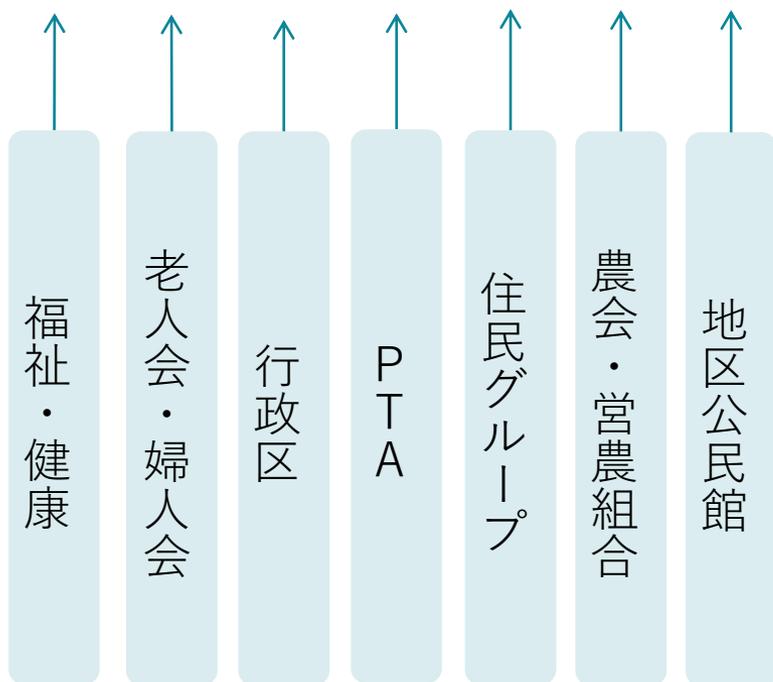
顕在化してきた新しい地域課題

3 地域づくりの実行組織の必要性

- 従来の縦のつながりの関係から、横のつながりの関係を築くことが大切
- 行政区の枠組みを超えた広域の範囲で地域づくりの実行組織が必要

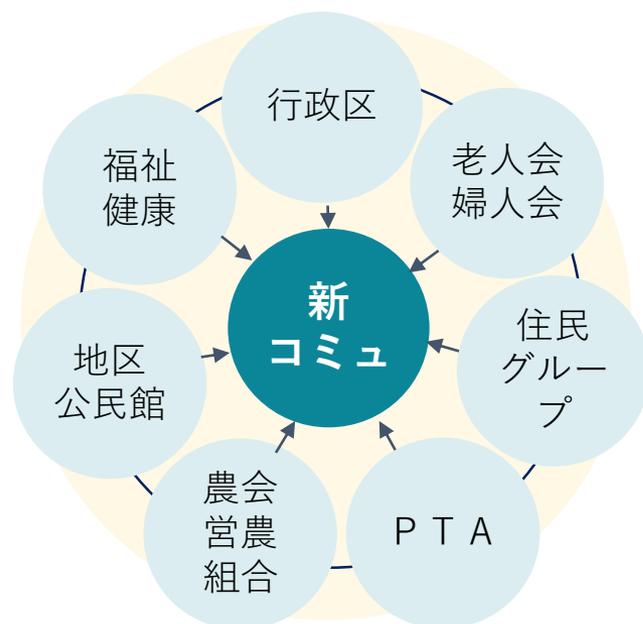
※ イメージ

個別分野の課題



横の「つながり」が薄く、効果が限定的、各団体の機能低下や団体の解散が見受けられる

多様化・広域化する課題

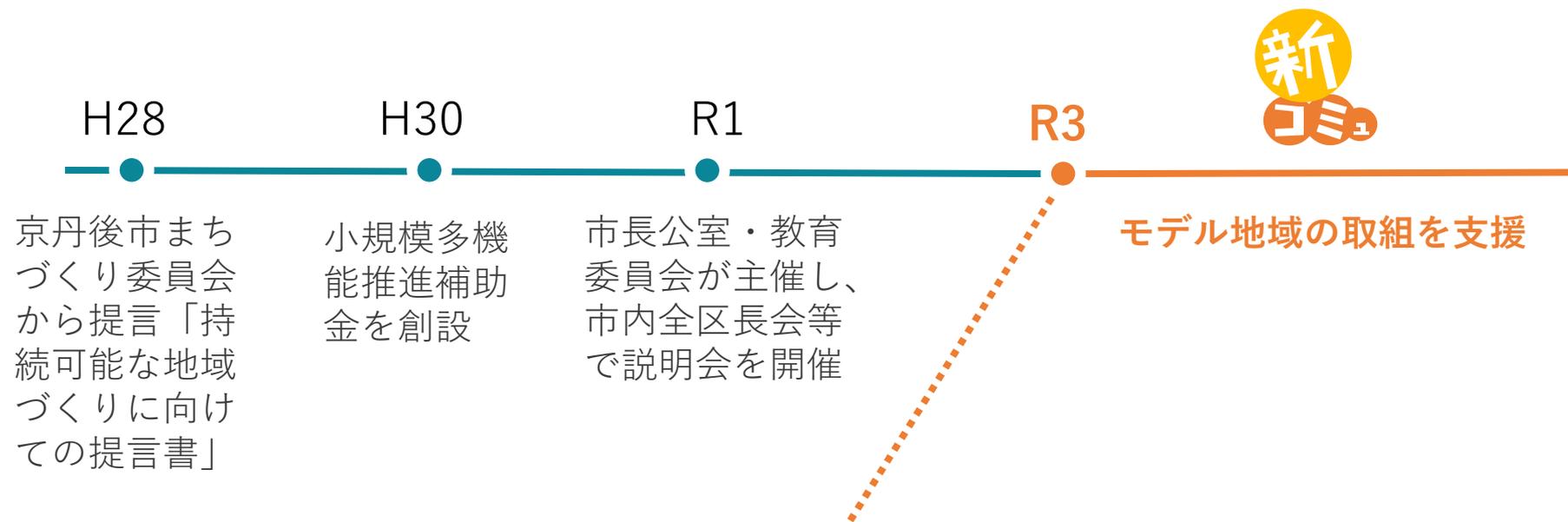


それぞれが持ち味を活かし「つながる」ことで効果を上げる。事務局を設け持続性を高める

4 京丹後市の取り組み経過



- 平成28年度京丹後市まちづくり委員会から市に提言
- 令和3年度に地域コミュニティ推進課を設置し本格的に施策を展開



地域コミュニティ推進課を設置

- 地域コミュニティ設立支援補助金
- 地域マネジャー配置事業
- 地域共生ステーション事業
- 各町に推進チームによる伴走支援 など

5 新たな地域コミュニティ【目指す姿】

- 旧村の範囲など広域で連携して「新たな地域コミュニティ」を形成
- 若者や女性など多様な人材の参画を促し、活動を多彩に
- 課題解決など元気で楽しく住みやすい地域を目指す取り組み

区は
そのまま

ポイント1 行政区を越えた広域で連携



ポイント2 若者や女性も活躍



新たな地域コミュニティの活動例 (イメージ)



新 コミュ = 多様な人材による多彩な活動で元気で楽しく住みやすい地域づくり

- 新たな地域コミュニティ組織にはできる機能から備えていただくこと期待
- 行政の担当部局や社会福祉協議会など関係機関と連携して推進

①地域防災（まもる）

地域防災計画の策定、避難所運営マニュアルの作成、防災訓練、防災リーダー育成、被災体験の共有など



④生涯学習（まなぶ）

多世代が集う取り組みの企画・開催（文化祭、運動会など）、地域の歴史文化を学ぶセミナーの開催など



②長寿福祉（ささえる）

サロンやカフェの開催、高齢者の見守り、生活相談窓口の設置、買い物や移動支援、福祉委員や民生委員との連携など



⑤関係人口（つなげる）

地域ファンづくり、空家活用（空き家の発掘、シェアハウスなどお試し住宅の運営）、移住希望者のサポート、体験交流イベントなど



期待する
6つの
機能

③こども（はぐくむ）

こどもの居場所づくり・地域版学童保育、登下校の見守り・声かけ、こども食堂、ふるさと教育、地域体験など



⑥地域創生（かせぐ）

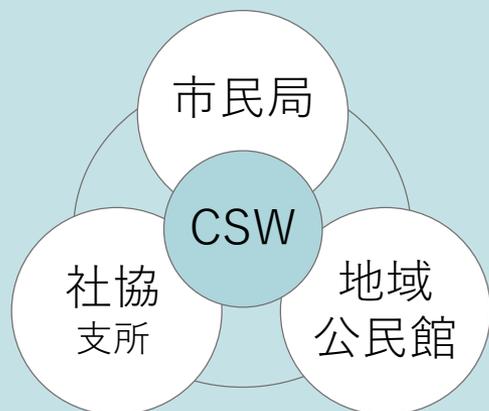
地域資源を活用した収益事業（ふるさと納税等）、多面的機能支払交付金等の広域化、労働者協同組合の検討など、財源確保の取組



5 新たな地域コミュニティ【地域共生ステーション】

- 「地域共生ステーション」としてCSWを配置（地域福祉との連携）
- 令和4年度から弥栄・久美浜、令和5年度からは網野・丹後にも設置

コミュニティソーシャルワーカー



- 市民局、社協、地域公民館の連携及び情報共有を強化、「地域共生ステーション」として町ごとに地域福祉を総合コーディネート

つながりづくり



多世代が集うサロン祭り（溝谷校区）

- 地区、地区公民館、福祉委員などの連携を促し、全体をコーディネート
- 多世代型の催しの企画支援、福祉ご近所マップ作りなど

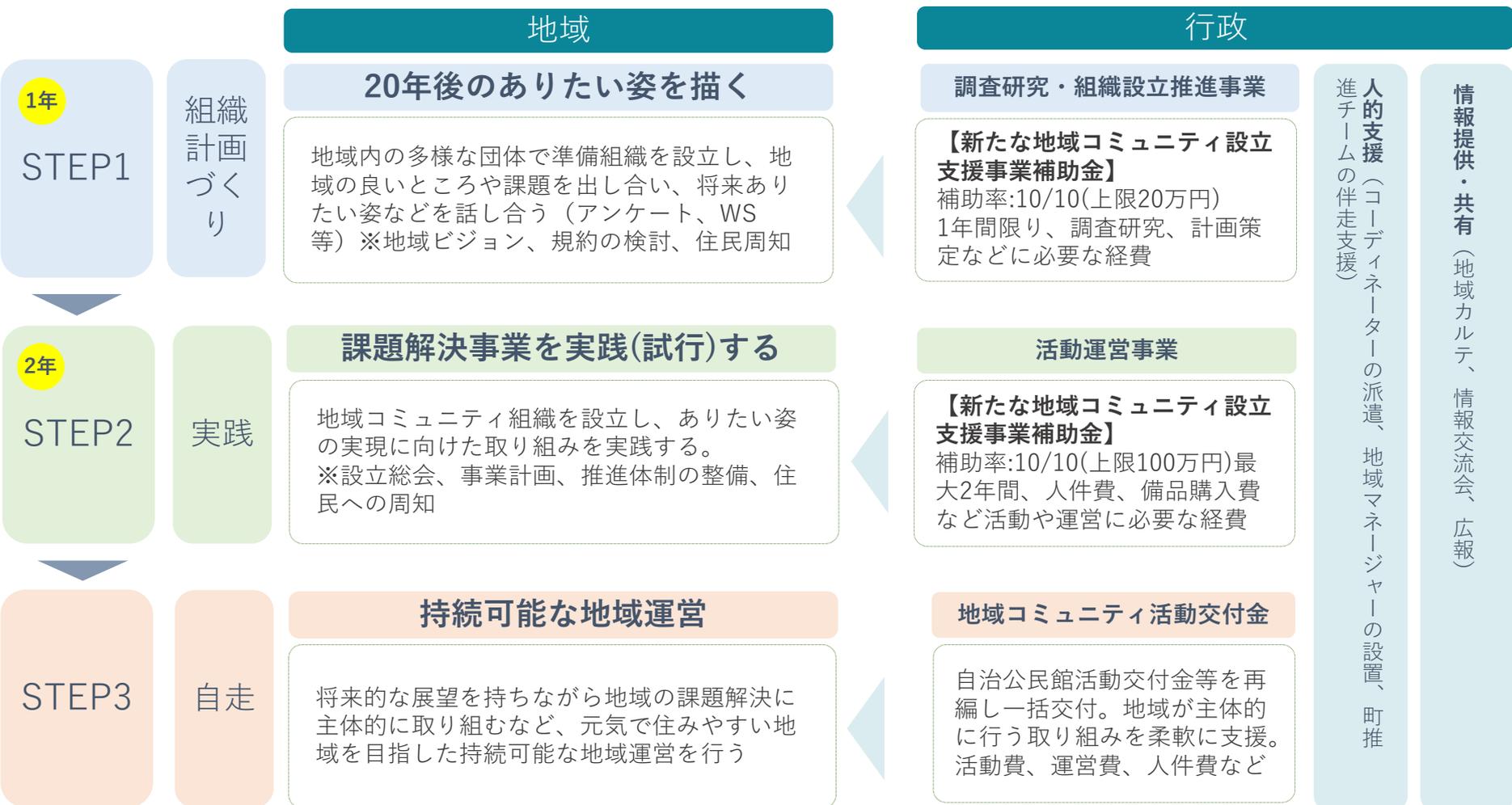
支え合いの場づくり



新コミュと連携した福祉講座（佐濃）

- 新コミュ組織から相談を受け、福祉部会や福祉委員、民生委員等と連携した講座やサロンの開催を支援

- 地域の状況に応じた段階から取り組みをスタートし、STEP3を目指す
- 市はステップに応じた財政支援、人的支援を行う



- 地域コミュニティ設立支援補助金と公民館活動交付金等を一体化
- 裁量を高め課題解決など地域が主体的に行う地域づくりを支援

ベース分

多様なつながりづくり事業

若者、女性等の多様な地域住民が集う場づくり及び地域社会を担う人づくりに関する取組に係る経費

- 1,000円/世帯×世帯数
- 小規模加算（人口規模に応じた加算）

加算分①

持続可能な地域づくり事業

地域マネージャーの設置及び活動に係る経費
地域防災、地域福祉、子育て支援、生涯学習、移住・定住の促進等
地域課題の解決に関する取組に係る経費

- 地域マネージャー配置（最大125万円）
- 地域課題を解決する事業（15万円）

加算分②

複合型地域プロジェクト事業

複数の地域資源及び地域課題を掛け合わせ、新たな主体の参画を促進しながら行う地域課題の解決に関する取組に係る経費

- 1組織あたり 10万円

子どもや若者が主体となった活動



場づくり・人づくり

地域マネージャー配置



地域課題の解決

赤米×子ども交流



多彩な活動・多様な参画

効果

地域の裁量を高め、地域課題の解決や小規模集落支援を強める

目指す姿

多様なプレイヤーが関わる多彩な地域活動により、活力ある持続可能な地域

7 稼ぐ地域を目指して【協同労働】

- 労働者協同組合法に基づく「労働者協同組合」の活用を推進
- 事業化により雇用を創出、持続性を高め、多様な地域課題を解決

コーディネーター設置

専門的な知見を持つコーディネーターを設置し、仲間づくり、組織づくり、事業計画の策定など労働者協同組合の設立を支援

労働者協同組合運営支援補助金

労働者協同組合が行う事業の経費に一部について支援

補助率：1/2

1箇年最大300千円、最大3年間



出典：日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会より

7 稼ぐ地域を目指して【地域版ふるさと納税】

- 地域が行うプロジェクトに必要な資金をふるさと納税で募る
- 集まった資金の最大90%を補助金として交付

弥栄町野間地域の事例（京丹後市ふるさと納税特設サイトより）

【弥栄町野間地域】「野間の保健室」など地域活性化プロジェクト（地域プロジェクトの応援）



■野間連合区

京丹後市弥栄町の野間地域では、連合区が中心となった効率的な地域運営の仕組みづくり、多世代が集える場づくり、移動支援や買い物支援など高齢者の暮らしの支援に取り組んでいます。令和4年からは、最先端の健康測定器材を導入した「野間の保健室」、地域資源を活用した収益事業の創出など、民間事業者との連携を模索しながら推進中。

野間連合区では、今後、地域活性化プロジェクトを推進するため、必要な資金を募っています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

■野間地域の概要

人口：143人

世帯数：82世帯

高齢化率：56.17%

構成する行政区：田中区、中津区、野中区、吉野区、須川区、叡区、味土野区、大谷区、来見谷区、中山区（10区）



参考資料

- 令和4年度区長全員にアンケート調査を実施（回答率93.75%）
- 事務の負担、地域活動や事業の実施継続など課題が明らかになった

19
%

43/225
区活動が困難

区の活動の維持が難しいと19%の区が回答。維持できると回答したのは14%のみ。

見直して維持したいと前向きな回答が63%。

また、維持が困難な区43のうち事務員がいるのは2つのみ。



15
%

34/225
独自事業が困難

15%が区独自の事業が実施できていない、どちらかといえば実施できていない。

小規模な行政区に回答が偏っている。



84
%

189/225
事務員がいない

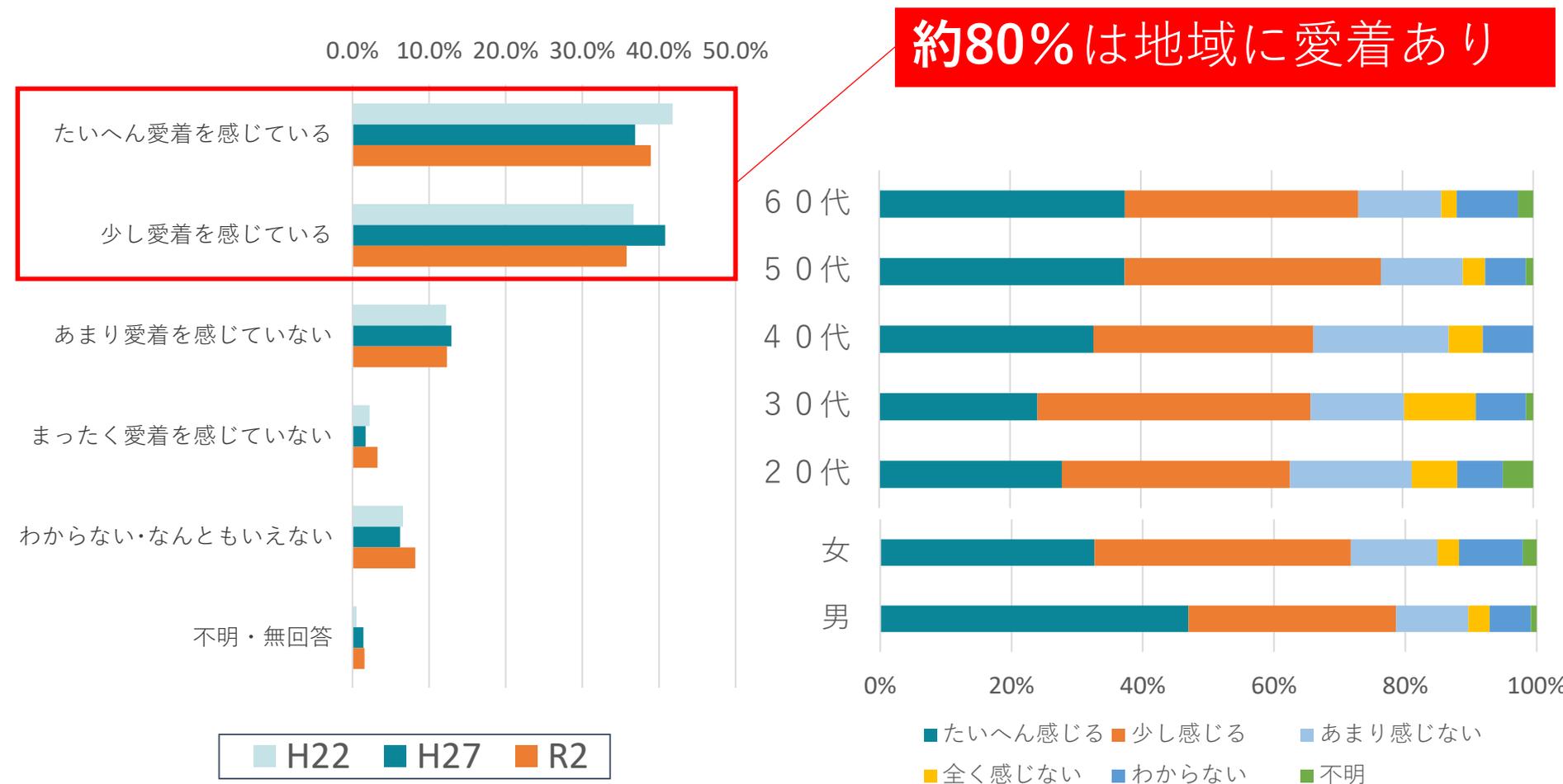
事務員がいない区のうち66%は、区長自身が事務を行っている。

50世帯未満の95の区で設置しているのは1区のみ。200世帯以上の22の区のうち77%が設置している。



- 全体の80%以上は愛着を感じているが、全体としては減少傾向。
- 20～40代の数値が低い。女性より男性の方が愛着を感じている。

問6 今お住まいの地域に愛着を感じておられますか。



※市が令和2年度に行った地域福祉に関するアンケート調査結果より（無作為抽出により2000人に依頼、回答率52%）

地域活動への参加度

- 50代以上で活動していない方が多い。子どもの成長によりPTAや子ども会と無関係になったことが一因と考えられる。
- 20～30代で活動したことがないが増加している。

問26 あなたは、現在自治会や子供会PTAなどの地域活動で、どのような活動をしていますか。回答数：1232

